



Title	沿革 意匠学会活動記録 (2009-2019)
Author(s)	今井, 美樹; 谷本, 尚子
Citation	デザイン理論. 2020, 75, p. 8-11
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/75333
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

意匠学会活動記録(2009–2019)

凡例：本編は「意匠学会活動記録 1959–2009」,
「会報」61～85号に基づき作成した。

編集：今井美樹，谷本尚子

■『デザイン理論』投稿規定の改正（平成18年7月29日〔第2回役員会〕大阪市立デザイン教育研究所）50号以降，掲載論文の「著作権および編集出版権は本学会に帰属するものとする」とこととなった。（投稿規定の改正は平成24年11月24日）

■デザイン史分科会第1回研究会の開催（平成18年9月9日〔第3回役員会〕大阪芸術大学）2件の研究発表がなされた。

■学会事務の外部委託（平成19年2月17日〔第6回役員会〕京都造形芸術大学）平成19年度以降，事務局を（株）大学生協・学会支援センターに委託することが承認された。

■大会開催時期の変更（平成19年11月10日〔第4回役員会〕神戸大学）平成20年度大会より，7月に開催されることが承認された。

■第13回役員改選（平成20年4月5日〔第1回役員会〕京都工芸繊維大学）第13回委員選挙が行われ（選挙平成20年2–3月），4月5日の第1回にて全役員を選出。会長に藤田治彦氏が，副会長には藪亨氏が再選された。事務局は大阪人間科学大学に，編集委員会事務局は神戸大学と京都工芸繊維大学に移転した。

■意匠学会作品賞はじまる（平成20年9月6日）平成20年7月19，20日京都造形大学で開催された意匠学会第50回大会のパネル発表を対象とした作品賞が選考委員会によって決定された。授賞式は平成21年7月11日第51回総会（於大阪大学）で行われた。

■『デザイン理論』発行時期の変更（平成21年2月6日〔第7回役員会〕京都工芸繊維大学）大会時期の変更に伴い，『デザイン理論』53号より春号を夏号に，秋号を冬号として発行することとなった。

■創立50周年記念大会（平成21年7月11，12日 大阪大学豊中キャンパス）創立50周年を記念して，第51回大会では研究発表，記念シンポジウム「都市とデザイン—国際性と地域性—」，見学会（総合学術博物館）が催された。

■『意匠学会活動記録』の発行（平成22年3月31日発行）創立50周年記念事業のひとつとして『意匠学会活動記録 1959–2009 —学会創立50周年記念誌—（The Japan Society of Design 1959–2009）』が本部事務局から発行され，各会員に郵送された。

■意匠学会賞各賞の欧文名称決定（平成22年5月15日〔第1回役員会〕大阪芸術大学）本学会賞各賞の名称を「The Japan Society of Design Award」（意匠学会賞），「Research Award of the Japan Society of Design」（意匠学会論文賞），「Design Award of the Japan Society of Design」（意匠学会作品賞）と決定した。

■運営組織メンバーの改定（平成22年7月31日〔第2回役員会〕関東学院大学）副会長を二名にする案が会則改正案と共に提出され，総会に提案されることが承認された。（会則第3章役員第8条の変更）

■第14回役員改選（平成23年4月9日〔第1回役員会〕京都精華大学）第14回委員選挙が行われ（開票平成23年3月15日）、4月9日の第1回役員会にて全役員を選出。会長に藤田治彦氏が再選、副会長に並木誠士氏と島先京一氏が選出された。事務局は大阪人間科学大学に、編集委員会事務局は宮城学院女子大学に移転した。二名の副会長は、『デザイン理論』担当（並木氏）、例会・大会担当（島先氏）となることが承認された。

■『デザイン理論』表紙リニューアル（平成23年7月16日〔第3回役員会〕国立民族博物館）新しい表紙デザインが『デザイン理論』59号から採用されることとなった。

■「デザイン史フォーラム（DHF）」との合流について（平成23年11月26日〔第5回役員会〕京都市立芸術大学）「デザイン史フォーラム（以下 DHF と省略）」の意匠学会への合流が承認された。意匠学会の国際交流部門（または委員会）として位置付けられることとなった。国際交流部門（または委員会）の担当者を橋本啓子氏、土金康子氏、竹内有子氏、肥後有紀子氏とすることが承認された。

■研究論文査読者の掲載（平成23年11月26日〔第5回役員会〕京都市立芸術大学）学術論文査読者の業績評価につながるとして、『デザイン理論』59号から査読者一覧を巻末に掲載することとなった。

■新サイト開設と新アドレス（平成24年2月4日〔第6回役員会〕大阪人間科学大学）広報委員会は、平成23年度末で現行の学協会情報発信サービスの業務終了のため、現ホームページを3月末で閉鎖し、ウェブサイト運営にNTTのプロバイダを利用して、4月よりデザインの変更とともに、新しいアドレス（Japansocietyofdesign@

gmail.com）で開設することとした。

■投稿者の所属表記について（平成24年7月21日〔第2回役員会〕京都工芸繊維大学）『デザイン理論』の巻末に執筆者情報を掲載することが承認され、発表者の所属表記を61号から実施することとなった。

■大会における英語発表について（平成24年9月29日〔第3回役員会〕成安造形大学）国際交流委員会より、大会で2枠の英文発表を設けることが提案され、承認された。発表者の資格は他の日本語による発表資格に準じ、発表申込、質疑応答、発表要旨は英文でおこなう。

■『デザイン理論』投稿規定の改正（平成24年11月24日〔第4回役員会〕京都造形芸術大学）現行の『『デザイン理論』投稿規定』に、口頭発表を経てからの投稿を基本とする旨と口頭発表の時期を投稿票の所定欄に記入する旨を追加することとなった。必然的に『デザイン理論』への論文投稿は入会の次年度以降となる。

■「訃報」「慶弔規定」等について（平成24年11月24日〔第4回役員会〕京都造形芸術大学）会員の慶弔規定について以下のように決定された。議事録・会報として記録される。慶：なし。弔：会員本人の死亡に限る。意匠学会における役職等に応じて、供花、弔電等、事務局で適宜判断する。

■会報への会員消息の掲載について（平成25年2月16日〔第5回役員会〕武庫川女子大学）「慶弔規定」と連動して、会報72号より「会員消息」欄を設け、事務局に連絡のあった場合や情報のあった会員のみ、①新入会員（氏名・所属）、②退会者（氏名）、③訃報（氏名・没年月日・簡略弔文）の順で掲載することとなった。

■本部事務局の移転（平成 25 年 5 月 18 日〔第 1 回役員会〕京都女子大学）都合により、平成 25 年 5 月末に本部事務局を大阪大学へ移転することとなった。

■第 15 回役員改選（平成 26 年 3 月 31 日〔第 1 回役員会〕京都四条「菊水」）第 15 回委員選挙が行われ（開票平成 26 年 3 月）、3 月 31 日の第 1 回役員会にて全役員を選出。会長に藤田治彦氏が再選、副会長に島先京一氏（『デザイン理論』担当）と佐藤敬二氏（研究例会・大会担当）が選出された。国際交流委員会を運営組織に配置することが承認された。事務局は引き続き大阪大学に設置、編集委員会事務局は島根大学に移転した。

■『デザイン理論』のウェブジャーナル化（平成 27 年 2 月 14 日〔6 回役員会〕京都女子大学）編集委員会より、大阪大学図書館の機関リポジトリを活用した電子ジャーナル化の提案があり、了承された。

■『デザイン理論』表紙リニューアル（平成 27 年 5 月 16 日〔第 1 回役員会〕京都嵯峨芸術大学）島先京一副会長より、表紙デザイン案の提示があり、投票によって決定され、66 号より採用されることとなった。

■本部事務局の移転（平成 27 年 5 月 16 日〔第 1 回役員会〕京都嵯峨芸術大学）都合により、8 月 1 日から来年度まで本部事務局を大阪工業大学に移転し、これに伴い事務局担当者の変更があった。

■投稿規定の改正編（平成 27 年 7 月 25 日〔第 2 回役員会〕武庫川女子大学）編集委員会より、デザイン理論の投稿規程の採択に関する 7 月 25 日付改正の提案があり、承認された。

■電子ジャーナルの閲覧（平成 27 年 11 月 21 日〔第 4 回役員会〕京都市立芸術大学）編集委員会

より、電子ジャーナルの閲覧が可能になった旨が、報告された。

■寄贈図書の掲載（平成 28 年 2 月 13 日〔第 5 回役員会〕京都女子大学）編集委員会より、次 회 報 79 号から寄贈書リスト欄を設け、寄贈図書を掲載する旨の報告があった。

■ホームページと電子ジャーナルのリンク（平成 28 年 5 月 14 日〔第 1 回役員会〕京都造形芸術大学）広報委員会より、学会ホームページにて『デザイン理論』リポジトリの検索サイトがリンクされた旨の報告があった。

■研究例会における口頭発表の形式について（平成 28 年 9 月 17 日〔第 3 回役員会〕京都工芸繊維大学）発表の内容に従って「研究発表」と「活動報告」の 2 種類のカテゴリーが検討された。『デザイン理論』に投稿希望する発表者は「研究発表」として投稿し、「活動報告」と区別することが承認された。

■第 1 回デザイン関連学会連携シンポジウムの開催（平成 28 年 9 月 17 日〔第 3 回役員会〕京都工芸繊維大学）藤田治彦会長より、日本デザイン学会秋季大会（10 月 1 日開催）にてシンポジウム「デザインの哲学」があり、各デザイン系学会の代表者が発表を行う旨の報告があった。

■分科会について（平成 28 年 11 月 19 日〔第 4 回役員会〕兵庫県立大学）藤田治彦会長より「ウィリアム・モリス研究会」をデザイン史分科会として開催することが提案され、承認された。

■第 16 回役員改選（平成 29 年 4 月 8 日〔第 1 回役員会〕京都市立芸術大学）第 16 回委員選挙が行われ（開票平成 29 年 3 月）、4 月 8 日の第 1 回役員会にて全役員を選出。会長に塚田章氏が、副会長に藤田治彦氏と今井美樹氏が選出された。本部事務局は京都市立芸術大学に移転、編集委員会事務局は京都工芸繊維大学に移転し

た。委託事務局は2016年度末に大学生協学会支援センターの業務終了にともない、株式会社毎日学術フォーラムに業務が移管された。

■**本部事務局幹事の設置**（平成29年4月8日〔第1回役員会〕京都市立芸術大学）本部事務局に幹事1名を設定することが提議され、承認された。

■**編集委員会幹事の設置**（平成29年4月8日〔第1回役員会〕京都市立芸術大学）編集委員会より、春号、秋号それぞれについて1名ずつ幹事を設定することが提議され、承認された。

■**第2回デザイン関連学会連携シンポジウムの開催**（平成29年4月8日〔第1回役員会〕京都市立芸術大学）平成29年9月30日の研究例会の後に「デザイン関連学会連携シンポジウム」を京都工芸繊維大学で開催することが決定された（テーマ「バウハウスとデザイン思想」）。

■**第3回デザイン関連学会連携シンポジウムの開催**（平成30年2月17日〔第6回役員会〕京都女子大学）平成30年5月20日、九州産業大学にて開催（テーマ「人工知能×デザイン」、芸術工学会大会との併催）。

■**『デザイン理論』執筆要項について**（平成30年2月17日〔第6回役員会〕京都女子大学）編集委員会より、執筆要項について電子メールでの投稿を受け付けることにし、2018年5月12日付で執筆要領を改訂した旨が報告され、承認された。

■**9月例会の廃止**（平成29年8月8日〔総会〕同志社大学）平成30年度以降、9月例会は定期的な研究発表会という形式を中止し、デザイン関連学会シンポジウムなどの事業がある際には計画することが諮られ、承認された。

■**創立60周年特集**（平成30年9月29日〔第3回役員会〕倉敷市芸文館）創立60周年を記念した特集についてのワーキンググループが役員を中心として発足した。『デザイン理論』75号に掲載予定である。

■**『デザイン理論』リニューアルについて**（平成30年9月29日〔第3回役員会〕倉敷市芸文館）本文の紙面レイアウトと表紙デザインの刷新、および会報の扱いについて検討するワーキンググループが役員を中心として発足した。本文レイアウトは74号から、表紙デザインは75号から採用される予定である。

■**「会報」の扱いについて**（令和元年8月8日〔第61回大会〕滋賀県立大学）これまで学会誌『デザイン理論』に所収されていた「会報」を、No.86より、学会誌とは別個に電子版として発行することが総会で承認された。